

仙台湾南部海岸総合学習だより

第6回「情報交換会・研修会」が開催されました!

去る平成20年2月22日(金)に第6回情報交換会・研修会が開催されました。前回の情報交換会の概要報告の後、今回の議題である、1)沿岸3市町各小中学校における総合学習のテーマ 2)教科書の単元と関連する環境ブックのテーマについて話し合いがなされ、



また今後の取り組みについても数々のご提案を頂きました。

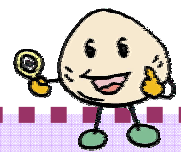
1)については、事務局が昨年12月に沿岸3市町の各小中学校へ総合学習のテーマについてアンケートを行った結果報告がありました。その中では前回ご紹介したPR用DVD「仙台湾南部海岸をフィールドとした環境学習」もある程度認知度があり、またご覧いただいた方々にはご理解を得ていたこともわかりました。今後は先生方に現地体験会などを計画して、仙台湾南部海岸をフ

ィールドとした学習の認知度を上げるよう努力して参ります。(2)については次頁に詳細)

季節柄大変お忙しいところ多くのおみなさんに参加していただき、また沢山のご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。

また来年度もより一層みなさんに利用していただけるよう努力して参りますので、よろしくお願ひします。

今後の取り組み



仙台湾南部海岸をフィールドとした環境学習 ~ 現地体験会 ~

前回、「海辺の博士による学校の先生方の体験会を計画する」という課題を受けて、事務局では「体験会の内容(案)」と、その「提案書(案)」を作成しました。

体験会の内容については、今回、事務局が素案を提示し、皆様からいろいろな意見を頂戴いたしましたので、それらを生かして、多くの先生方に参加していただけるものを計画していきたいと考えております。

この企画には海辺の博士のみなさまにも快く承諾していただき、感謝しております。

まだ詳細は決定しておりませんが、決まり次第、周知させていただきますので、興味のある方は是非ご参加ください。

事務局の発行

単元と環境ブックテーマとの関係について

< 単元と環境ブックの関係 >

事務局では、以前から情報交換会などで出されていたご意見を元に、小中学校の教科書の単元と環境ブックについての関連性をまとめてみました（右の一覧表を参照）。

先日行われた第6回の情報交換会において、この単元と環境ブックの関連性についてうかがったところ、委員の皆さんからは、「環境ブックを活用される先生方次第で想定以上の効果が得られるのでは？」といったご意見や、「フィールドワークの会場までの移動手段や移動時間が問題になるので工夫が必要では？」といったご意見などが出されました。

今後、これらのご意見を踏まえながら、小中学校で取り入れてもらえるよう、努力して参りたいと思います。

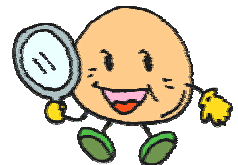


小・中学校の教科書の単元と環境ブックテーマの関係 (案)

教科書	学年	学習指導要領	関係する環境ブックのテーマ番号															
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
★ 小学校の教科書の単元と環境ブックテーマの関係			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
理科	3年	昆虫や植物の育ち方・体のつくり、昆虫と植物のかかわり（生き物の調べ方、海岸の生物、共生関係、標本作り）																
	4年	身近な動物や植物の活動、成長と季節のかかわり（生き物の調べ方、海岸の生物、生物の生育・生態環境）																
	5年	月や星の特徴や動き（観の測り引き）																
	5年	植物や動物の発生や成長（生き物の調べ方、海岸の生物、生物の生育・生態環境、植物の調べ方）																
	5年	物の調べ方（汽水域の環境、海水成分、塩作り）																
	5年	流れる水の働きと土地の変化（水の循環、海浜流、離岸流、砂浜の堆積、漂着物）																
社会	6年	生物と環境のかかわり（生き物の調べ方、海岸の生物、生物の生育・生態環境）																
	6年	水循環の性質や働き（汽水域の環境、海水成分、製塩）																
	6年	土地のつくりと変化（砂浜の堆積、土の働き方）																
3・4年	安全を守る工夫（身近な災害、公共施設の働き）																	
5年	我が国の自然などの様子（地域の人の暮らし、国土保全）																	
6年	我が国の歴史（地域の産業の歴史、地域の文化遺産）																	
6年	我が国の政治の働き（公共施設の建設、災害復旧）																	
★ 中学校の教科書の単元と環境ブックテーマの関係			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
理科	第1	身の周りの物質を用いた物質の性質や変化の把握（水溶液、酸性・アルカリ性、人工物）																
	第2	動植物の体のつくりと働き、動植物の種類（動物の種類、生態環境、海岸の生き物と役割）																
		身近な地形の変化（海岸の侵食、海岸保全）																
		身近な天体の運動（観の測り引き）																
地理的・歴史的	動植物の働きや自然環境などの自然と人間のかかわり（海岸の動植物、生態環境（観の測り引き、汽水域、水環境））																	
	身近な地域の地理的事象（地形、土地利用、公共施設の働き、交通網、海岸の侵食、自然災害）																	
	地域の伝統的な文化や産業、食料など（製塩、漁業）																	
	身近な地域の歴史（製塩、江戸時代の水運、火山地帯利用）																	
社会的	近世の産業、交通の発達と地方の生活文化（漁業、江戸時代の水運、火山地帯利用）																	
	国や地方公共団体の経済的役割と社会資本整備（海岸の保全、海岸線の保全）																	

< 今後の課題 >

この春から教育要綱が改変されることとなり、総合学習の時間そのものが大きく様変わりしていきませんが、国土交通省としては、こうした変わりゆく総合学習時間への対応を図り、より多くの学校がこれからも仙台湾南部海岸をフィールドとした総合学習に取り組んでいけるよう支援していく予定です。



【TOPICニュース】山元町の海岸でアカウミガメが産卵・孵化しました！

< 県内で初めて孵化が確認されたアカウミガメ >

去る11月7日の河北新聞に、山元町の海岸でアカウミガメの産卵・孵化が観測された記事が掲載されていました。なんと県内初ということ。記事によると、アカウミガメの卵は発見当初から地元・行政職員の方々に手厚く保護されていたようですが、孵化するための条件が整わず、なかなか孵化に至りませんでした。しかし、マリンピア松島水族館の協力を得て産卵場を掘り返したところ、103個分の卵と孵化した子ガメが見つかり、そのうち37匹の赤ちゃんガメが海へと無事帰っていったそうです。

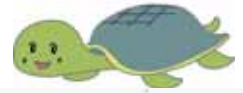
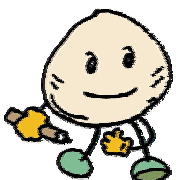
県内で見つかった要因はまだ不明とのことですが、それにもましてアカウミガメが産卵できるような砂浜の環境保全が大事だということのようです。

なお、孵化しなかった残りの卵から孵ったカメたちは、現在松島水族館で飼育されているので、興味がある方は見学に行ってみてはいかがでしょうか？

< 大倉小学校のフィールド学習でも見つかった！？ >

この記事を読むこと約1ヶ月前の10月、大倉小学校の生徒さん達によるフィールド学習が巨理町の鳥の海で行われましたが、その時砂浜にまるでピンポン球のようなものがいくつも見つかったのです。

これは、もしやウミガメの卵では！？と生徒さん達をはじめ、皆で大いに盛り上がりましたが、残念ながら孵化はしていないようでした。ですが、もしこれがウミガメの卵で、孵化していたなら、県内初は鳥の海だったかもしれません。来年もまたウミガメが来て産卵を行い、孵化した子ガメに出会えることを期待したいものです。



アカウミガメ産卵・孵化

山元町の海岸で七月末にアカウミガメが卵を産み、十月中旬に孵化したことが分かった。四十四匹の子ガメが海に帰ったという。アカウミガメの産卵場所の北限は、いわき市辺りといわれており、県内で産卵と孵化が確認されたのは初めて。

山元の海岸
アカウミガメが卵を産んだのは、山元町の砂浜。七月二十一日に夜約りをしていた町内の男性が、産卵を終えて海に居るアカウミガメ一匹を見つけた。翌日、町に連絡した。現場は車両進入禁止だが、時折、車が入ってくるため、町職員が周囲にフェンスを打ってロープを張り、卵を保護して来た。

県内初確認
産卵から二カ月半が経過する七月下旬、九日の二回、砂を掘り返すも孵化は確認できず、加したところ、計百三十分、えさの砂の中の温度が二〇度の卵と化した子ガメが七匹、七匹の子ガメが海へ帰った。孵化できなかった卵も七匹の子ガメが海へ帰った。寒さのために死んだ卵や子ガメも多いという。

低温耐え抜き37匹海へ
が、産卵から二カ月半の協力を得て十七日と干潮時に掘り返すことになり、計百三十分、えさの砂の中の温度が二〇度の卵と化した子ガメが七匹、七匹の子ガメが海へ帰った。孵化できなかった卵も七匹の子ガメが海へ帰った。寒さのために死んだ卵や子ガメも多いという。

低溫耐え抜き37匹海へ
が、産卵から二カ月半の協力を得て十七日と干潮時に掘り返すことになり、計百三十分、えさの砂の中の温度が二〇度の卵と化した子ガメが七匹、七匹の子ガメが海へ帰った。孵化できなかった卵も七匹の子ガメが海へ帰った。寒さのために死んだ卵や子ガメも多いという。

町に残った卵の保護を水族館に依頼し、水族館では現在、九匹が成長七、八センチ程度まで育つており、山元町と水族館は来年、成長した子ガメを分売を希望している。山元町と水族館は来年、成長した子ガメを分売を希望している。

町は「宮城県で産卵が確認されたのは初めて。カメが分布域を広げようとしたが、温暖化の影響で産卵場所が北へ向かって進む化し、たはかりのアカウミガメ10月19日、山元町野



平成 19 年 11 月 7 日(水) 河北新報朝刊

【「官学連携で総合学習」の新聞記事について】

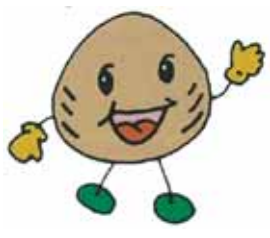
平成 20 年 1 月 15 日(火) 河北新報朝刊

この記事は、今年の1月15日に掲載されたものです。タイトルのとおり、官学連携による総合学習を行ってきた取組が取り上げられたものです。

海辺の博士である今野さんが、利府町のしらかし台小学校の生徒さん達と行ったフィールド学習の様子が紹介されています。

この記事をとおして、より多くの方々に、総合学習への取組内容やフィールド学習への興味を持っていただけたのではないのでしょうか？

今後はより多くの学校がフィールドを活用した総合学習に興味を持っていただき、実際に取り組んでいただけるようPRしていきたいと考えております。



官教大と国交省仙台湾河川国道事務所

宮城教育大(仙台市青葉区)と国土交通省仙台湾河川国道事務所が、宮城県仙台湾南部海岸を舞台にした総合学習支援事業を進めている。周辺は自然、生活などの情報や人材を提供し、小中

官学連携で総合学習

宮城大と仙台湾河川国道事務所は、2004年(平成16年)2月に、仙台湾南部海岸を舞台にした総合学習支援事業を進めている。周辺は自然、生活などの情報や人材を提供し、小中

副読本作製や「博士」派遣

海岸域の情報を提供

「海辺の博士」の今野さん(左)の指導を受ける生徒さん達(右)が、汽水域に生息する生物を採集する様子

「海辺の博士」の今野さん(左)の指導を受ける生徒さん達(右)が、汽水域に生息する生物を採集する様子

教育



編集後記

“暑さ寒さも彼岸まで”とよく言われるように、寒さも一段落してようやく春の足音が聞こえてきた今日この頃ですね。来年度には教育要綱が改定され、総合学習のも大きく様変わりしていくようです。今後は、環境ブックや海辺の博士制度も、「使うもの」から「使いこなす」ようにしていく必要があると思います。よりよいものにしていくため、今後皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

【編集・発行】

2008年(平成20年)3月
仙台湾南部海岸総合学習情報交換会

【事務局・お問い合わせ先】

国土交通省仙台湾河川国道事務所 調査第一課
〒982-8566 仙台市太白区郡山 5-6-6
電話：022-248-4131(内線 356・357)
メール：sendai@thr.mlit.go.jp